

事務事業名	≪H24新規≫自然を学び楽しむプロジェクト事業 ☐ 実施計画事業		所属部局	総合政策部		単位番号	2012- 900008						
			所属課室	政策推進課		課長名							
			所属担当			担当者名							
基本政策	基本計画体系	Ⅱ	にぎわいと活力あふれる都市づくり		予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目	
政 策		09	地域資源を活かした観光の振興		事業区分	01	一般	02	01	07	110	02	
施策		16	観光基盤の整備			☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☐ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金							
事業期間	☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返（開始年度 H23 年度） ☒ 期間限定複数年度（ H23 ～ H24 年度）		法令根拠										
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 橿形山西側エリアにトレッキングコースを設置し、他の観光資源と結び新たな南アルプス観光ルートを開発することで多くの集客へと繋げる。					事業費の主な内訳（ H24年度 決算見込 ）							
						項目(細節)		金額(千円)		項目(細節)		金額(千円)	
						普通旅費		178		その他工事請負費		60,000	
						消耗品費		125		補償金		10,000	
						印刷製本費		2,100					
					使用料		30						
					不動産借上料		100		計		72,533		

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
24年度活動実績	・県許認可事項取得 工事着手
25年度活動予定	・オープンイベントの開催 ・活用PRと活用メニュー考案
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
健康づくりや自然環境学習をする市民やトレッキングを楽しみに訪れる観光客	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)	
市民には健康づくりや生涯学習の場として継続した利用を目指す。また、観光客にはリピーターとなるよう利用者拡大を図っていくことで他の観光資源利用へと繋げる。	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
橿形山トレッキングコースを中心に、他の観光資源とリンクすることで集客拡大へと繋げる。	

⇒ ⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない	
名称	単位
ア許認可事項	件数
イ延長	km
ウ利用者	人
⇒ ⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない	
名称	単位
ア市民	人
イ観光客	人
ウ	
⇒ ⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない	
名称	単位
ア利用者	人
イ	
ウ	
⇒ ⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない	
名称	単位
ア来訪者	人
イ	

(2) 事業費・指標の推移				単位	23年度 (決算・実績)	24年度 (決算見込・実績)	25年度 (予算・目標)	26年度 (次年度計画・目標)	27年度 (計画・目標)	28年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			県支出金	千円		10,000					
			地方債	千円		47,500					
			その他	千円							
			一般財源	千円		15,033	8,798				
	人件費	事業費計 (A)		千円	0	72,533	8,798	0	0	0	0
		正規職員従事人数		人		2	6				
		延べ業務時間		時間		4,030	241,800				
		人件費計 (B)		千円	0	15,967	958,012	0	0	0	0
		(A)+(B)		千円	0	88,500	966,810	0	0	0	0
活動指標	ア	イ	ウ	件数		10.0	0.0				
				km		5.5	5.5				
				人		0.0	21,000.0				
対象指標	ア	イ	ウ	人		0.0	21,000.0				
				人		0.0	5,000.0				
成果指標	ア	イ	ウ	人		0.0	26,000.0				
上位成果指標	ア	イ	ウ	人		0.0	26,000.0				

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	橿形山からの白根三山眺望と自然資源をはじめ多くのひとに知って触れてもらい、また他の観光資源とリンクさせることで新たな観光ルート開発を目的に実施された。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	休眠状態の既存資源を活性化させ、橿形山観光ルートとして再生を図る。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	自然に配慮し、自然を活かした形でのコースづくりが求められている。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☒ 取り組みしている ⇒【内容↓】 ☐ 取り組みしていない ⇒【理由↓】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過（取り組みしていない場合はその理由）	関係者からの意見を踏まえ遊歩道づくりを行った。
③ H 24年度に実施した改革改善の内容	・工作物の減少 ・希少植物の保護

事務事業名	《H24新規》自然を学び楽しむプロジェクト事業	所属部	総合政策部	所属課	政策推進課
-------	-------------------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 この事業が成功することにより新たな観光資源として活用することで観光振興へと繋がる。	
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPO、市民協働に移行することは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 開発されていないエリアに素晴らしい自然資源があるが、市民への公開がされていない。これらを健康づくりや生涯学習の場として市民をはじめ多くのひとに提供していくため。 設置後は、NPOなど民間団体などとの協働運営も可能と思われる。 事務事業の全部もしくは一部を外部に移行することが可能である。 ☐ 民間・NPO ☐ 市民協働	
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 楡形山観光ルートの柱として、また観光資源の核としてフルーツ狩りなど他の資源と合せることで、観光産業のより一層の向上を図っていく上からも妥当である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地 今後さらに事務事業の成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☒ かなり向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ ある程度向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由↓】	
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない	
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☐ 休止・廃止ができる ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 事業途中で成果が見えない	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 事業は、発注されており完成間近なため。	
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 上記に同じ	
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 利用者に制限はなく、障がい者や体力に自信がない方にも一部利用可能である。	

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	コースの設置には、関係者等から意見を徴すなかで進めてきた。完成後の活用策と管理運営について検討が必要。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト水準</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th> <th>向上</th> <td>☐</td> <td>☐</td> <td>☐</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td>☐</td> <td>☒</td> <td>☐</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td>☐</td> <td>☐</td> <td>☐</td> </tr> </table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒	☐	低下	☐	☐	☐
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	☐	☐	☐																		
	維持	☐	☒	☐																		
	低下	☐	☐	☐																		
(2) 改革改善案について 利用者の意見を聞きながら対応する。																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 未定	(5) 事務事業優先度評価結果																					
	成果優先度評価結果 コスト削減優先度評価結果																					